

国際商品1年で5割高 2000年代で最大、供給制約が拍車 1/2

原油や金属、穀物など国際商品が高騰している。商品の総合指数は1年間で5割弱伸び、1995年以降で最大の上昇を記録した。新型コロナウイルス禍から景気が回復に向かい需要が急増するなかで、地政学リスクなどが十分な供給を妨げている。需給逼迫への懸念が広範に商品価格を押し上げる構図だ。輸入依存度の高い一部の国では政情不安につながり始めている。

商品の総合的な値動きを示すリフィニティブ・コアコモディティCRB指数は1月末時点で前年比46%上昇した。同期間の上昇率としてはデータを遡れる95年以降で最大となった。

原油など多くの品目が値上がりしている。主要22品目の年間騰落率（1月末時点）は9品目で5割超の上昇となり、コーヒー（91%高）や綿花（58%高）、アルミニウム（53%高）など身近な製品の原材料に広がる。原油は需要が急回復する一方、脱炭素による投資手控えも響き供給懸念が強い。天然ガスはウクライナ情勢の緊迫化で高騰した。物流など供給網の乱れや労働力不足も需給を逼迫させている。

金属では、電気を多く使うアルミがコスト増で製錬大手が減産に追い込まれ、供給が不足している。天然ガスの上昇は肥料の主成分であるアンモニアの製造コストを高め穀物生産に響いている。

商品高は世界経済の回復を鈍らせている。国際通貨基金（IMF）は、現在のエネルギー価格の水準が続くことなどを前提に、今年の世界経済の成長率を0.5ポイント押し下げると試算する。みずほリサーチ&テクノロジーによると、日本の2021年度の原材料輸入額は、商品市況の高騰により前年から約10兆円増加する見込みだ。

米国など各国は金融引き締めを急ぐが、「供給側のショックがもたらすインフレを金融政策で抑制するのは難しい」（JPモルガン証券の鶴飼博史経済調査部長）。

今後の焦点は、政情不安の広がりだ。エネルギーの7割を輸入するトルコでは1月の消費者物価指数（CPI）上昇率が前年同月比49%と激しい。今月初め頃から賃上げを求める労働者やエネルギー価格の高騰に抗議するデモが広がっている。

輸入依存度が5割のキューバでも21年7月に異例の大規模デモが国内各地で起きた。米国の制裁や物流網の混乱、通貨の実質切り下げなどが加わり、配給で生活物資をまかなえなくなっている。そこにエネルギー高が追い打ちした。

国際エネルギー機関（IEA）のデータによると、19年時点でエネルギーの輸入依存度が5割を超える国は、世界143カ国・地域のうち47カ国と多い。

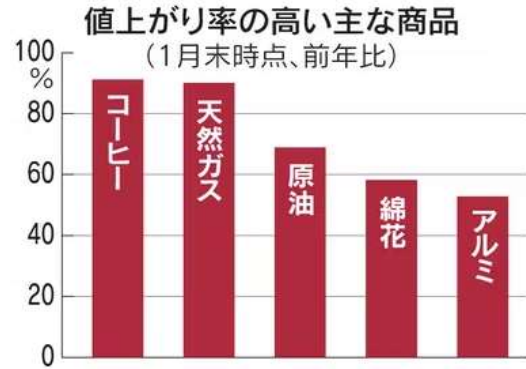
中央アジアのカザフスタンでも自動車向け燃料などに使われる生活必需品の液化石油ガス（LPG）価格の高騰が、年初からの各地の抗議デモにつながった。

値上がりは食料にも波及。タイでは1月に豚肉の価格が3カ月前に比べて約5割上昇した。家畜の飼料に使われる大豆やトウモロコシが値上がりした。豚肉はタイで最も消費量が多い食肉だ。11年に始まった中東の民主化運動「アラブの春」は食料価格の高騰が発火点になったとされる。

資源国のインドネシアは石炭に続き、食品や日用品などの原料となるパーム油の輸出制限に踏み切った。自国経済を優先して資源を囲い込む「資源ナショナリズム」が国際価格に上昇圧力を与える動きも出てい

国際商品1年で5割高 2000年代で最大、供給制約が拍車 2/2

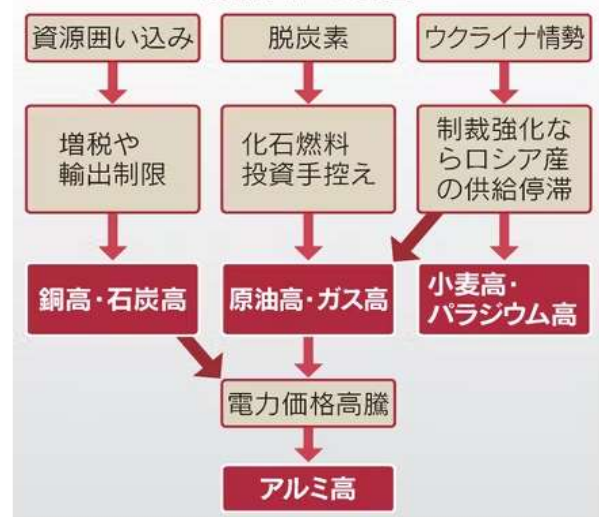
商品価格の上昇率は95年以降で最大



各国のエネルギー輸入依存度



資源高に3要因



ENEOSHD次期社長・斉藤猛氏 新しモノ好きの聞き上手

「脱炭素をはじめ、変革に対応するのが私の使命だ」。10日のオンライン記者会見で何度も「脱炭素」と口にした。画面越しにも危機感がひしひしと伝わってきた。

2020年6月に発足したENEOSホールディングス（HD）の次期社長に就く。1888年に母体の日本石油ができてから100年以上続く祖業の石油事業はいま、脱炭素という未曾有の課題に直面する。資源開発から石油精製・販売、金属と多様な事業を抱える巨大企業のかじ取り役を担う。

自然豊かな熊本県阿蘇地域で幼少期を過ごした。山の中を駆け回り、体を動かすのが大好きな少年は大学進学を機に上京する。就職活動でもフットワーク軽く、いろんな会社の社員からビジネスの本音を聞いた。日本石油に決めたのは「肌が合う先輩たちと一緒に働けそう」という直感だった。

入社後は主に販売部門を歩んだ。東京都内の給油所経営者は「私たちの意見をよく聞いてくれる」と評する。21年以降、IT（情報技術）戦略や新領域の育成、電気自動車（EV）事業も担当。競合の石油元売り幹部は「デジタルやITにも詳しい。新しいモノが好きで印象だ」とみる。排熱を回収して再利用する新しい灯油給湯器の開発を主導するなど、新しモノ好きの性分を生かしてきた。

「妻からは『生粋の肥後もっこすだね』と言われる」。負けず嫌いで妥協を許さないとされる熊本県人の気質を表す言葉だ。粘り強さが持ち味のトップが脱炭素時代の石油元売りの未来をどう描くか。成長への土台づくりが始まる。（鈴）

さいとう・たけし 86年（昭61年）早大政経卒、日本石油（現ENEOSHD）入社。19年JXTGエネルギー（現ENEOS）取締役常務執行役員、21年ENEOSHD取締役副社長執行役員。熊本県出身。



トルエン国内価格9%上昇 ナフサ高を反映

塗料やウレタンに使うトルエンの卸価格が上昇した。大口需要家向け価格は1キログラム122円程度と1月に比べ10円（9%）高く、2014年11月以来の高値となった。値決めの指標となる国産ナフサ（粗製ガソリン）の21年10～12月期価格が上昇したことを受けた。

トルエンは今後、需給がさらに引き締まりそうだ。韓国の石油化学プラントの生産トラブルでアジア市場に不足感が出ている。メーカーがトルエンを輸出に振り向ければ、国内の流通量が減る可能性がある。

トルエンが粗原料のウレタンは、冷蔵庫の断熱材向けが堅調だ。自動車生産が持ち直すとの期待感から、シートやウレタン製クッション材向けが増えるという見方も強い。

たこ焼き、串カツ… なにわの味 値上げの波 原料高、春以降に検討の店も

小麦粉などの原材料価格の高騰を受けて、大阪名物に値上げが広がっている。大阪市の飲食店では、たこ焼き店の甲賀流が10個入りを一律50円値上げしたほか、串カツ店なども検討中だ。新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」の感染拡大で客数が減り、原料高の転嫁で採算を確保する。

大阪・アメリカ村などで店舗を展開する甲賀流は1月初めにたこ焼きを値上げした。売れ筋の「ソースマヨ」は450円から500円になった。小麦粉や食用油に加え、2021年からマヨネーズなども価格が上昇した。タコの輸入価格は主要産地のモロッコでの漁獲量の減少や物流停滞で平年より2～3割高い。運営会社、甲賀流（大阪市）の田中由弘社長は「さらなる値上げも考えなければ」と話す。

たこ焼き店のわなかも「春先から夏ごろに値上げする見通し」という。原価率が10～15%ほど上がっている。ほかの大阪名物にも広がりそうだ。老舗串カツ店の串かつだるまは01年のチェーン展開後で初の値上げを検討している。千房ホールディングス（同）は、ネット通販で販売する冷凍食品のお好み焼きの値上げを検討中だ。包装資材もコストが上昇しているためだ。一方、店舗では「メニューやレジの設定変更などにコストがかかり、値上げに踏み切りにくい」（同社）という。

金龍ラーメンは21年12月末、ラーメンの価格を600円から800円に引き上げた。小麦粉や野菜、肉など原材料だけでなく運送費も上昇。価格変更は阪神タイガース優勝を記念して値下げした03年以来だ。

オミクロン型の感染が拡大し、市内の飲食店の状況は厳しい。わなかの来店客数は21年末に平年の7割程度まで戻ったが、1月は3分の1程度に落ち込んだ。甲賀流も1月23日の日曜日のアメリカ村本店の売上高が10万円を切り、日曜日として過去最低だった。27日には大阪、京都、兵庫の3府県に「まん延防止等重点措置」が適用された。お好み焼きのゆかりも客数が平年の5割以下といい、「重点措置が予定より延びたらさらに苦しい」。

食品メーカーの値上げも相次いでいる。21年12月の消費者物価指数（総務省）は、変動の激しい生鮮食品をのぞき前年同月比0.5%上がった。インフレが進む公算が大きい。

流通経済研究所の山崎泰弘常務理事は「大阪の食文化で重要な小麦粉の高騰が響いている。観光客より、日常的に食べる地元の人の消費行動への影響が強いのでは」と指摘する。

廃食用油使った燃料で走行試験

JR東海は9日、在来線の車両に次世代バイオディーゼル燃料を使った走行試験を名古屋市内の車両基地で報道公開した。使用済みの食用油からユーグレナが開発した燃料200リットルをハイブリッドの新型特急車両に使い、時速15キロメートルで約500メートル走った。